

# 新年のあいさつ

大崎市長 伊藤 康志



平成21年7月5日、愛媛県宇和島市と北海道当別町の姉妹都市の調印が、両市町と姉妹都市の本市岩出山地域の旧有備館を会場に行われました。



平成21年9月18日、東北自動車道三本木パーキングエリアに、スマートインターチェンジが開通しました。



平成21年9月5日、国道108号「花淵山バイパス」起工式が行われました。

## 未来へつなぐ確かな道筋を！

あけましておめでとうございませう。市民皆様には希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、日本の将来、そして我が宮城県の将来にとって大切な二つの選挙がありました。国政では総選挙の結果、民主党政権が誕生しました。「地域主義」を掲げた新政権の地方分権推進に大いに期待しております。

県政では「加速！富県みやぎ」を掲げた村井知事が当選し、村井県政の二期目が力強くスタートいたしました。

一方、地方の経済や雇用は、金融危機に端を発した急速な景気悪化から地域経済にも暗い影を落とし、企業経営や雇用情勢の回復ができない状況にあり、雇用への不安が広がりました。本市では「大崎市緊急景気・雇用対策本部」を

設置し、関係機関と連携し、再就職の相談所の開設や市独自による新卒高校生の雇用など、経済対策や雇用の場の確保に取り組み、このピンチを新たな活路を見出すチャンスに変えようとしています。

また、昨年からもう一つの不安が日本中、世界中で猛威を振るっています。新型インフルエンザの感染が拡大し、市民の健康が脅かされ、予防やワクチンの確保など、その対応に追われました。まだ流行が収まったわけではなく、引き続き警戒の手を緩めるわけにはいきません。

そのような中であっても、本市の宝、そして市民皆様の情熱で、数々の喜ばしいニュースが、私たちを励ましてくれました。

日本テレビの企画番組「日本一うまい水道水大調査」において、本市水道部が製造し

ているペットボトル「鳴子の水」が日本一に輝きました。また、「日本一おいしい米コンテスト」において、鳴子温泉地域生産の「ゆきむすび」が最優秀賞（日本一）受賞。本市生産の「ひとめぼれ」や「ササニシキ」「たきたて」も優秀賞や特別賞を受賞するなど、米どころ大崎として大きな喜びであります。

さらに、KHB東日本放送主催の「09みやぎふるさとCM大賞」において、大崎市が出品した「ねぐらいいり」が大賞を獲得いたしました。ガンのねぐらいいりを題材にした三十秒間の作品で、ラムサール条約登録湿地「蕪栗沼・周辺水田」と「化女沼」があり、渡り鳥に選ばれたまち大崎市の映像が一年間放送されます。

スポーツの分野では、東北楽天のクライマックスシリーズ

ズ進出やベガルタ仙台のJ2初優勝と来期J1昇格決定など、宮城県のプロスポーツチームが大活躍の年でしたが、本市においても古川北中学校野球部が県・東北大会優勝、全国大会に出場。宮城大崎リトルシニアチームが県・東北大会優勝、今春全国大会出場。古川学園高校野球部が秋季県大会優勝、東北大会出場など、輝かしい成績を収めて私たちに元気と希望を与えていただきました。

しました。待望の三本木スマートインターチェンジが開通しました。高速アクセスが格段に向上し、通勤や救急医療など、住民の利便性はもとより、企業誘致や観光面でも大いに期待されます。

未来を担う子どもたちの環境整備が推進された年でもありました。大崎南学校給食センター（ひまわりキッチン）の開設。幼保一元化施設「三本木ひまわり園」の開設に続き、「鹿島台なかよし園」も竣工に向け順調に工事が進んでおります。小・中学校改修や学童保育、保育所整備も推進されました。

本市の行財政改革も平成二十年度の一般会計の実質単年度収支が黒字になるなど、着実に財政健全化につながる一歩となりました。

大崎市が取り組む「宝の都（くに）大崎」の実現に向けて着実に歩みを止めることなく進んでいます。

新しい年は、これまでのま

ちづくりの基盤の上にたつて、飛躍・発展につながる年にしてまいります。

今年の干支は「寅」。漢書律曆志では「寅は「蟠（いん）」。動くの意味で、春が来て草木が伸び始める状態を表すと解釈されており、大崎市

も干支にあやかり、成長・発展を期してまいります。

特に市民の命と健康を守る拠点、県北の基幹病院、マグネットホスピタルを目指す市民病院本院と熱望される岩出山分院の建設に全力で取り組んでまいります。

今年にはクルマ元年。セントラル自動車やパナソニックEVエナジーの新工場が稼働します。地元企業飛躍のチャンス、社員移住受け入れのチャンスです。

大交流時代の訪れです。東北新幹線が東京から青森まで全線開通します。全国に誇れる観光資源を連携、融合して観光立市、農商工連携、おおさきブランド確立のチャンスです。

そして環境の時代でもあります。農林業や環境、新エネルギーに期待が高まる中、大崎版グリーンニューデール、バイオマスタウン起動のチャンスです。

激動の時にこそ未来社会に向けて誤りなき道筋を描いてはばたくチャンス。

合併五年目、五（G）五（G）大崎モデル実現のために力強く前進してまいります。市民皆様の一層のご健勝とご多幸を念じて年頭のあいさつといたします。

懸案の社会基盤づくりが大きく前進した年でもありました。悲願の花淵山バイパスが異例の国直轄権限代行事業として、六年ぶりに再開、起工

設置し、関係機関と連携し、再就職の相談所の開設や市独自による新卒高校生の雇用など、経済対策や雇用の場の確保に取り組み、このピンチを新たな活路を見出すチャンスに変えようとしています。

また、昨年からもう一つの不安が日本中、世界中で猛威を振るっています。新型インフルエンザの感染が拡大し、市民の健康が脅かされ、予防やワクチンの確保など、その対応に追われました。まだ流行が収まったわけではなく、引き続き警戒の手を緩めるわけにはいきません。

そのような中であっても、本市の宝、そして市民皆様の情熱で、数々の喜ばしいニュースが、私たちを励ましてくれました。

日本テレビの企画番組「日本一うまい水道水大調査」において、本市水道部が製造し

しているペットボトル「鳴子の水」が日本一に輝きました。また、「日本一おいしい米コンテスト」において、鳴子温泉地域生産の「ゆきむすび」が最優秀賞（日本一）受賞。本市生産の「ひとめぼれ」や「ササニシキ」「たきたて」も優秀賞や特別賞を受賞するなど、米どころ大崎として大きな喜びであります。

さらに、KHB東日本放送主催の「09みやぎふるさとCM大賞」において、大崎市が出品した「ねぐらいいり」が大賞を獲得いたしました。ガンのねぐらいいりを題材にした三十秒間の作品で、ラムサール条約登録湿地「蕪栗沼・周辺水田」と「化女沼」があり、渡り鳥に選ばれたまち大崎市の映像が一年間放送されます。

スポーツの分野では、東北楽天のクライマックスシリーズ